専念寺通信

１１月号（NO.１７１）

１１月に入り、いよいよ秋も深まって来ました。皆さまお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。「通信」１１月号をお届けします。

☆戦争しない国にするには

２００４年に専念寺で「戦争のつくりかた」という小冊子をお配りしました。覚えていらっしゃる方もおいでかと思います。小さな団体が作り、その後、出版社から定価５００円で大手の書店で販売されました。いま、この冊子がもう再入手できないのだと、ある高校の先生に伺いました。この冊子のはじめの部分は、以下のようです。

「わたしたちの国は、６０年ちかくまえに、「戦争をしない」と決めました。だからあなたは、戦争のためになにかをしたことがありません。でも、国のしくみやきまりをすこしずつ変えていけば、戦争をしないと決めた国も、戦争できる国になります。わたしたちの国を守るだけだった自衛隊が、武器を持ってよその国にでかけるようになります。世界の平和を守るため、戦争で困っている人びとを助けるため、と言って、せめられそうだと思ったら、先にこっちからせめる、とも言うようになります。戦争のことは、ほんの何人かの政府の人たちで決めていい、というきまりを作ります。ほかの人には、「戦争することにしたよ」と言います。時間がなければ、あとで。」

１０頁からは以下のようです。

「政府が、戦争するとか、戦争するかもしれない、と決めると、テレビやラジオや新聞は、政府が発表したとおりのことを言うようになります。政府のつごうのわるいことは言わない、という決まりも作ります。」１４頁は以下です。

「学校では、いい国民はなにをしなければならないのか、をおそわります。どんな国やどんな人が悪者か、もおそわります。」「町のあちこちに、カメラがつけられます。いい国民でない人を見つけるために。」２０頁です。**「戦争には、お金がたくさんかかります。そこで政府は、税金をふやしたり、わたしたちのくらしのために使うためのお金をへらしたりして、わたしたちから借りたりして、お金を集めます。」**最後は次のように結ばれます。

「人のいのちが世の中で一番たいせつだと、今までおそわってきたのは間違いになりました。一番たいせつなのは「国」になったのです。」私たちのおさめた税金や年金の使い道がずいぶんいい加減なのだと分かって来ました。御嶽山の噴火でわかるように地震の多い火山列島の日本で、また原子力発電所を動かそうと決めています。国をまかされた「大人」がずるい事を続けていながら、学校に「道徳」の時間を入れると決めました。いま、この小冊子がなぜ販売させてもらえないのか考えてみたいと思います。朝晩冷え込んで参りました。みなさま、お身を大切になさって下さい。　　平成２６年１１月１日　大黒